



令和四年度総会報告

令和四年度総会が、10月27日（木）、京都府亀岡市において開催されました。亀岡市での開催は平成十二年度、平成二十二年度に続き3回目の開催となりました。

サンガスタジアムby KYOCERAを総会会場とし、全国から49名の会員の方々にご出席いただき、早川尚秀会長（足利市長）の挨拶で開会となりました。開催地である亀岡市より、亀岡市長の桂川孝裕様から歓迎のご挨拶をいただき、続いて、故足利義弘様のご子息である足利義徳様、顧問代理の京都府商工労働観



光部観光政策監の野口礼子様からご挨拶いただきました。



その後議事に入り、令和三年度事業報告及び決算報告、次いで令和四年度事業計画及び予算について事務局から説明があり、原案のとおり承認されました。また、次年度総会開催地について、茨城県古河市と栃木県野木町2市町の合同開催とすることでご了承

を賜わり、代表として古河市長の針谷力様からご挨拶をいただきました。

記念講演会

総会終了後、おもてなしの宿溪山閣に会場を移し、記念講演会が行われました。亀岡市文化資料館学芸員大欠哲様を講師にお迎えし、「足利尊氏と丹波・篠村八幡宮」と題してご講演をいただきました。終了後は全員で記念撮影を行いました。



交流懇親会

その後、宴会場に会場を移し、交流懇親会が行われました。早川会長、桂川亀岡市長からご挨拶をいただいた後、奥村（一社）亀岡市観光協会長の乾杯のご発声で会員間の親睦を深めました。アトラクションとして、ミニ削ろう会による鉋削り大会・体験会を開催するなど、にぎやかに交流の輪を広げました。



最後に、次年度開催地の針谷古河市長、真瀬野木町長から締めのご挨拶をいただき、華やかで思い出深い亀岡市での夜となりました。



奉告祭

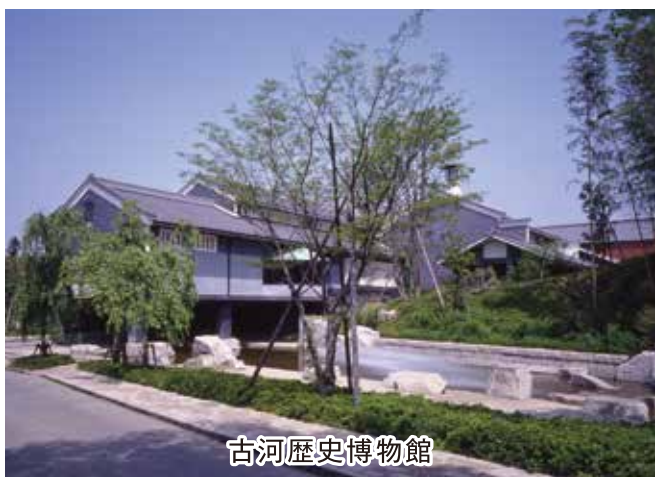
翌日、篠村八幡宮において奉告祭が行われました。篠村



八幡宮は、足利高氏が京都の六波羅攻めに際し、必勝を祈願した「足利高氏旗あげの地」であり、また、源氏復興を願う願文や鎬矢を奉納されたとされています。足利義徳様をはじめ代表者6名による玉串奉奠後、社務所に展示いただいた「願文」「御判御教書」や「旗立楊」等を鑑賞し、境内を散策しました。奉告祭後は京料理松正にて昼食を取った後、現地にて解散となり、全日程が終了となりました。

令和五年度総会開催地紹介 (茨城県古河市・栃木県野木町 合同開催)

古河市は、関東平野のほぼ中央、茨城県の西端に位置し、西に埼玉県、北に栃木県と接しています。東京の主要駅とは約1時間で結ばれ、圏央道境古河ICから各地へ便利なアクセスも整備されています。また、本市を含む4県境に跨り、ラムサール条約湿地に登録もされている渡良瀬遊水地



古河歴史博物館



古河公方館跡

や古河公方館跡が残る古河公方公園など、首都圏内に位置しながらも身近に豊かな自然環境が残るまちです。

古河と足利氏とのゆかりは、鎌倉公方であった足利成氏が、享徳4(1455)年古河に本拠を移したことに遡ります。以後、足利氏は、古河公方として約130年間5代にわたり東日本の政治史に重要な足跡を残しました。